

注意報

注意報

注意報

注意報

注意報

注意報

6 3 6 1 - 7 3 6

平成19年8月27日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター

平成19年度病害虫発生予察注意報第5号について
平成19年度病害虫発生予察注意報第5号を発表したので送付します。

平成19年度病害虫発生予察注意報第5号

平成19年8月27日

宮崎県

病害虫名 クワシロカイガラムシ

作物名 茶

1 発生地域 県下全域

2 発生時期 -

3 発生量 多

4 注意報の根拠

1) 8月中旬の巡回調査におけるクワシロカイガラムシの発生は、発生面積率47.1% (平年19%) と平年よりやや多い。また、寄生株率は24.1% (平年7.5%) と平年に比べて多い発生であった(図1、2)。

2) 向こう1ヶ月の天候は、平年と同様に晴れの日が多く、気温は平年並みか高い(8月24日鹿兒島気象台発表) と予想されており、クワシロカイガラムシの増殖に好適である。

3) 第3世代で防除が徹底できなかった園では、次年以降の発生が多くなる傾向がある。

4) 平成16年以降毎年注意報を発表しているが、発生面積率、寄生株率ともに高い状況が続いている(図3)。

本年は既に注意報第1号(4月27日付け) を発表したところであるが、依然として発生の多い状況が続いている。

5 防除上の注意

1) 防除はふ化最盛期に行うことが大切である。ふ化幼虫は日が経過するにつれて口吻物質で体を覆うため、薬剤の効果は期待できないので時期を失しないよう注意する。

2) 3世代の防除適期は幼虫初発の1週間~10日後である。本年の児湯地域での第3世代幼虫初発は8月20日前後である(茶業支場調査) が、地域やほ場によって発生時期は異なるので、ふ化状況を確認してから薬剤散布を行うことが必要である。

3) 第3世代は茶園の端と中とではふ化時期のばらつきが大きいので、ふ化状況を確認し、端と中の防除適期が7日以上ずれる場合は2回散布する必要がある。

4) 他害虫の防除の際には、茶園に生息する天敵を保護し活用していくために、天敵類に影響が少ない薬剤を用いて防除する(表1)。

5) 防除薬剤等その他の詳細については、病虫害防除・肥料検査センター、総合農業試験場茶業支場、各農業改良普及センター等関係機関に照会すること。また、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努める。

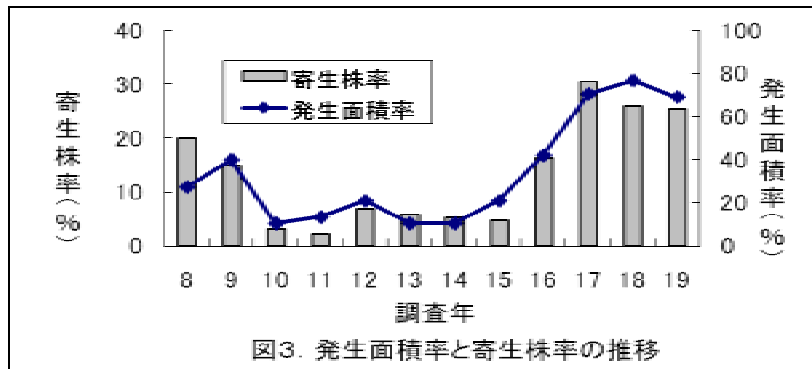
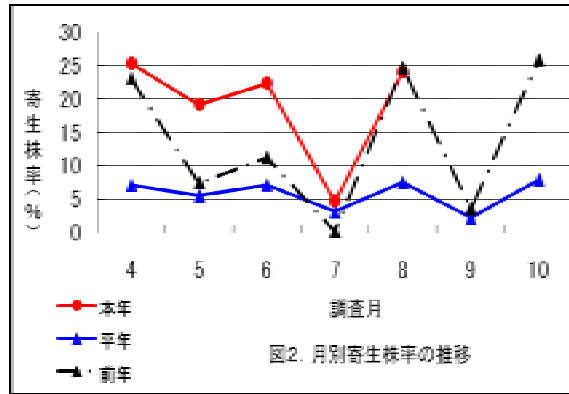
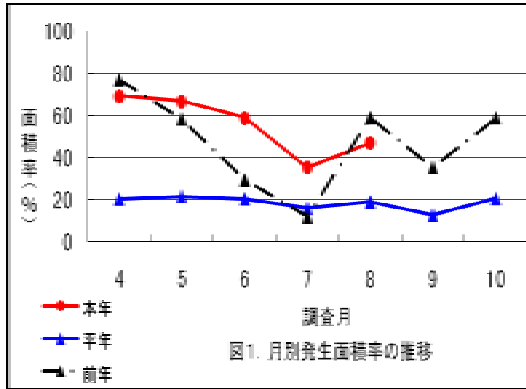


表1. 天敵(タマバエ類)に対する薬剤の影響

薬剤の系統	タマバエ類に対する影響
有機リン剤(スプライト・ダズバトン・DDVP等)	×
カーバメート剤(ラベント・ラネット等)	×
合成ピレスロイド剤	×
ネオニコチノイド剤(エス・ラン・バリアード等)	~
IGR(脱皮阻害)剤(アプロート・ファルコン等)	

=ほとんど影響なし =多少影響あり ×=影響が大きい

宮崎県作成「クワシロカイガラムシの上手な防除法」参照

《連絡先》
 病虫害防除・肥料検査センター 邊見
 TEL:0985-73-6670 FAX:0985-73-749
 ホームページ: <http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>
 E-mail: byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

